



Press Release

2017年8月10日

2017年度の見通しを再確認

ヘンケル、第2四半期の好調な業績を報告

- 名目売上高は大幅に増加: 9.6%増の 5,098 百万ユーロ、既存事業売上高は 2.2%増と堅調
- 営業利益は2桁成長: 11.0%増の 909 百万ユーロ
- 売上高営業利益率(EBIT マージン)のさらなる改善: 20 ベーシスポイント増の 17.8%
- 優先株(一株)あたり利益(EPS)の大幅な成長: 10.7%増の 1.55 ユーロ

*一時所得、一時費用およびリストラ費用を除く

デュッセルドルフ - ヘンケル最高経営責任者のハンス・ファン・バイレンは、「第2四半期もヘンケルは順調に業績を伸ばし、四半期売上高、調整後の営業利益、EBIT マージン、優先株(一株)あたり利益は過去最高に達しました。全3事業部門がこの好業績に貢献しました。売上高は大幅に増加して約 51 億ユーロとなり、調整後の営業利益および調整後の売上高営業利益率はさらに向上しました。調整後の優先株(一株)あたり利益は2桁の成長を見せました。極めて厳しい市場環境にもかかわらず、ヘンケルの業績は好調でした」と述べました。

また2017年度に関しては、「全体的に不安定で不確実性の高い市場環境が年間を通して続くと思われる。為替の変動は続き、消費財市場の厳しい状況は依然として変わらないでしょう。それでも、当社は引き続き好業績を実現するために、そして戦略的優先事項を実行するために力を尽くしていきます」と述べました。

こうした厳しい市場環境の中、ヘンケルは今年度の見通しを再確認しました。ハンス・ファン・バイレンは、「既存事業売上高は2~4%の伸びを予想しています。調整後の売上高営業利益率は17.0%を上回る水準まで上昇し、調整後の優先株(一株)あたり利益は7~9%増加すると見込んでいます」と述べました。

2017年第2四半期の売上高および利益

2017年第2四半期の売上高は過去最高水準の5,098百万ユーロに達し、名目売上高は前年同期比9.6%増加しました。主にサン・プロダクツ社の買収により、売却・買収の貢献は7.4%に達しました。外国為替の影響は全般に大きくありませんでした。外国為替と買収・売却による影響を除外した既存事業売上高は2.2%増と好調でした。

アドヒーズ テクノロジーズ(接着技術)事業部門の既存事業売上高は、3.4%増と着実な伸びを示しました。ビューティーケア事業部門の既存事業売上高は、前年同期と同水準でした。ランドリー&ホームケア事業部門の既存事業売上高は、2.1%増と堅調な伸びを記録しました。

新興市場の既存事業売上高は 4.7%増と極めて好調な伸びを示し、今期もグループの既存事業売上高の成長に平均を上回る貢献をしました。成熟市場の既存事業売上高は 0.5%増のプラス成長となりました。

販促競争が激化し価格圧力が高まる消費財市場において、今期、ヘンケルの既存事業売上高は、西欧 1.2%減とわずかに減少、その他のすべての地域は、東欧 5.2%増、アフリカ・中東 1.1%増、北米 3.2%増、中南米 6.1%増、アジア太平洋地域 4.8%増と成長を達成しました。

調整後の営業利益(EBIT)は、11.0%増加して 909 百万ユーロとなりました。3 つの事業部門のすべてがこの好業績に貢献しました。

調整後の売上高営業利益率(EBIT マージン)は、0.2 ポイント増の 17.8%となりました。調整後の優先株(一株)あたり利益は、1.40 ユーロから 10.7%増の 1.55 ユーロとなりました。売上高に対する正味運転資本は、0.1 ポイント改善して 5.2%となりました。

事業部門別実績

接着技術事業部門は、既存事業売上高が 3.4%増と着実な伸びを示しました。名目売上高は、3.5%増と過去最高の 2,370 百万ユーロとなりました。調整後の営業利益は、6.6%増の 455 百万ユーロに達しました。調整後の売上高営業利益率は非常に力強い伸びを示して、過去最高水準の 19.2%となりました。

ビューティーケア事業部門は、既存事業売上高が前年同期と同水準でした。名目売上高は、0.9%増の 997 百万ユーロとなりました。調整後の営業利益は 4.3%増と非常に力強い伸びを示して、180 百万ユーロに達しました。調整後の売上高営業利益率は大幅な伸びを記録して、過去最高水準の 18.0%となりました。

ランドリー&ホームケア事業部門は、既存事業売上高が 2.1%増と好調な伸びを示しました。名目売上高は前年同期比 26.6%増の 1,703 百万ユーロとなりました。調整後の営業利益は、22.2%増の 298 百万ユーロとなりました。サン・プロダクツ社の買収が、売上高および営業利益の両方に著しく貢献しました。調整後の売上高営業利益率は 17.5%となりました。

魅力的な買収でポートフォリオをさらに強化

ヘンケルは、第 2 四半期の初めに、グローバル企業の Darex Packaging Technologies (ダーレックス・パッケージング・テクノロジーズ) 社の買収およびゾンダホフ・グループの買収を滞りなく完了させました。これによりヘンケルは接着技術事業部門をさらに強化し、テクノロジー・ポートフォリオを補完しました。

2017 年上半期の堅調な業績

半期の売上高は 11.5%増えて 10,162 百万ユーロとなり、初めて 100 億ユーロを超えました。外国為替と買収・売却による影響を除外した既存事業売上高は 3.1%増と極めて好調な伸びを示しました。3 つの事業部門のすべてがこの好業績に貢献しました。

調整後の営業利益は、1,570 百万ユーロから 12.3%増加して 1,763 百万ユーロとなりました。

調整後の売上高営業利益率は、17.2%から 17.4%に改善しました。

調整後の優先株(一株)あたり利益は、2.67 ユーロから 10.9%(29 ユーロセント)増加して 2.96 ユーロとなりました。

2017年上半期、接着技術事業部門の既存事業売上高は4.4%増と極めて力強い成長を示しました。調整後の売上高営業利益率の伸びは著しく、18.6%に達しました。ビューティーケア事業部門の既存事業売上高の伸びは1.1%でした。調整後の売上高営業利益率は大幅に上昇し、17.4%を記録しました。ランドリー&ホームケア事業部門の既存事業売上高は2.5%増と良好な伸びを見せました。調整後の売上高営業利益率は17.4%でした。

2017年の見通しを再確認

ヘンケルは2017年度の見通しを再確認しました。既存事業売上高成長率は2~4%と見込んでおり、各事業部門がこの範囲内で成長すると予測しています。調整後の売上高営業利益率は前年を上回り、17.0%を超える水準まで上昇すると予想しています。調整後の優先株(一株)あたり利益は7~9%増を見込んでいます。

(本プレスリリースは、2017年8月10日にドイツ・ヘンケル本社が発表したプレスリリースの翻訳版です)

ヘンケルについて

ヘンケルはブランドとテクノロジーのグローバルリーダーとして、ランドリー&ホームケア、ビューティーケア、アドヒーズテクノロジー(接着技術)の3つの分野で事業展開をしています。ヘンケルは1876年の創立以来、コンシューマービジネスおよび産業分野において、Persil(パーシル)、Schwarzkopf(シュワルツコフ)、Loctite(ロックタイト)などに代表される有名なブランドの数々と共に、グローバルにおけるマーケットリーダーとしての地位を維持しています。ヘンケルの従業員数は50,000人超であり、2016年の売上高は187億ユーロ、調整後の営業利益は31.7億ユーロを計上しました。ヘンケルの優先株はドイツ株式指数DAXのリストに入っております。

ヘンケルジャパンホームページ: <http://www.henkel.co.jp>

ヘンケルジャパンフェイスブックページ: <http://www.facebook.com/HenkelJapan>

コンタクト

Lars Witteck

Phone +49 211 797 - 2606

E-Mail: lars.witteck@henkel.com

Wulf Klüppelholz

Phone +49 211 797 - 1875

E-Mail: wulf.klueppelholz@henkel.com

— 本件に関するお問合せ先 —

ヘンケルジャパン株式会社 広報室 葭山 良江

Phone: 090-8503-3553 Email: yoshie.yoshiyama@henkel.com